



NEWS LETTER

The Japan Nursing Ethics Association (JNEA)

日本看護倫理学会第15回年次大会のご案内

大会メインテーマ: 困難に立ち向かう看護の道德と倫理

会期: 2022年5月28日(土)・29日(日)

会場: プラサヴェルデ (沼津駅北口徒歩3分)

大会長: 太田勝正 (東都大学沼津ヒューマンケア学部)



2020年から続くCOVID-19感染は人々の健康と暮らしに大きな打撃を与えました。私たち看護職は、臨床看護師としてあるいは看護教育者としてそのまっただ中に置かれ、多くの倫理的な課題に直面してきました。臨床場面における困難は、学会による緊急調査の結果でも報告させていただきました。その中で心が折れそうになったり、看護専門職として倫理的な困難に押しつぶされそうになった方も多くおられたこととお察し申し上げます。

当学会は、看護倫理の問題に立ち向かう学会です。第15回年次大会は、看護倫理上の大きな課題にどのように向き合っていけばよいかについて、私たちの心の原点にある道德的な基盤に目を向け、課題の解決につながる道德的・倫理的な強さを得るための手がかりを探っていきたくて考えました。それに関するキーワードとして、公衆衛生倫理的なアプローチ、功利主義の可能性と限界、モラルレジリエンスなどが挙げられます。これらを基調講演や教育講演を通じて皆様と一緒に考えていきたくて思います。多くの会員の方の参加をお待ちしています。そして、この1年(あるいはそれ以前から蓄積された)の研究成果

についてご発表頂き、参加者と意見交換したいと思っております。

さて、当学会の年次大会は、一昨年が紙上開催で今年はweb開催でした。学会の醍醐味の一つは、普段はなかなか会うことのできない仲間と再会し、学問の枠を超えた思いを共有することにあると思います。もちろん真摯な学問上の学びや発表者との意見交換が一義的な目的だと思っております。そこで今回の第15回年次大会は、リアルな対面型の学会として開催致します。参加者は、2年ぶりに生(なま)の講演や学会発表を聞くことができます。直接、発表者とやり取りすることができます。もちろん会場の感染対策は十分に講じます。それでも入場制限や県を超えた移動制限などが求められた場合は、基調講演や教育講演、そして口述発表についてオンラインで視聴、参加できるように致します。全力を上げてリアルな学会の開催準備を進めますので、心置きなく参加のスケジュールを立てて下さい。そして、演題発表の準備を進めて下さい。

2年ぶりに、皆様と沼津の地でお会いできることを心よりお待ちしております。

演題登録期間: 2021年11月15日(月)～2022年1月28日(金)

事前参加登録期間: 2022年1月4日～4月22日

大会HP <https://procomu.jp/jnea2022/>



後援

静岡県看護協会 愛知県看護協会
山梨県看護協会 三重県看護協会
大阪府看護協会 静岡県沼津市

※日本看護倫理学会年次大会は、認定看護師認定更新審査の自己研鑽ポイントの加算対象(分野共通)です。

日本看護倫理学会第14回年次大会開催のご報告 大会長 八尋道子

「ケアの倫理を教える・学ぶ・実践する」をテーマに、第14回年次大会をオンラインで開催いたしました。発表演題数は合計49題、交流集会は10題でした。また、基調講演をはじめ、教育講演、大会長講演、シンポジウム、COVID-19特設セッションや市民公開講座など、特別プログラムは17題でした。会員332人、非会員559人、学生44人、合計935人にご参加いただきました。コロナ禍での開催で、皆様と直接お会いすることは叶いませんでしたが、オンデマンド配信を42日間行ったことから、都合の良い時間にアクセスできてオンラインもいいものだとプラスのご感想を頂戴しました。さまざまな形でご支援いただきました会員の皆さまに心より感謝申し上げます。

ご挨拶(理事長:八代利香)

2021年5月29日に、「一般社団法人日本看護倫理学会」として初めての社員総会がオンラインで開催されました。会員総会については、HP上での資料の掲載とさせていただきます。社員総会で10名の理事と2名の監事の選任案が承認され、新たな役員体制がスタートしました。委員会については、新理事を委員長として活動をスタートしております。今年度は法人化2年目を迎え、委員会活動をより充実させるための委員会内規の検討、および会員数の増加に向けての活動を強化して参ります。引き続き会員の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集委員会(委員長:鶴若麻理)

学会誌へのたくさんのご投稿をありがとうございます。編集委員会では投稿資格の改訂を検討してきました。すでにご案内の通り、筆頭著者以外は会員に限定しないことに変更いたしました。本学会は、看護倫理の知の体系化を図り看護倫理に関心をもつ実践者・研究者・教育者等の交流に努め、看護倫理に関する提言を行うことを目的としております。様々な領域の専門職、関連分野の研究者との共同研究の投稿を促進することは、看護倫理に関する多角的な知見を得、さらなる看護倫理の発展につながると考えております。会員の皆さまによる様々な領域・分野の人々との学際的な研究の投稿の場となることを祈念しております。また、2021年9月よりオンライン投稿システムのバージョンアップをいたしました。投稿者と査読者、双方にとってスムーズなやりとりを期待しております。会員のみなさまの熱心な研究活動の成果を通して、編集委員一同、新たな発見や気づきを得ております。今後とも会員の皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

学術活動推進委員会(委員長:麻原きよみ 副委員長:ウィリアムソン彰子)

学術活動推進委員会では、委員会主催の第14回大会での交流集会「COVID-19によって研究はどう変わるのか一時勢を鑑みた安全な研究のありかた・進め方」、および第13回大会でのワークショップ「看護倫理教育コーチングライブ:惹きつけられる看護倫理教育を考えよう」で用いた資料を教材としてまとめ、近日中に学会ホームページにアップします。来年の第15回大会では、委員会主催の交流集会を開催する予定です。委員会では、学会としての学術活動、会員の皆様の学術活動を促進・支援する取組み等、会員の皆様に還元できる活動を引き続き検討していく予定です。

臨床ガイドライン検討委員会(委員長:宮坂道夫)

COVID-19の先行きが見えないため、今年度もオンライン研修会を行います。テーマは「身体拘束を始めないための看護管理」です。「始めない」が、今回のキーワードです。身体拘束は習慣化してしまうと、簡単にやめられないもの。そこで、いかにして「始めない」かを考えます。現場での悩みや様々な思いを語り合う交流会も行います。日程は2022年1月22日(土) 13:00~16:30です。非会員の方でも、参加費2000円で参加していただけます(会員は無料です)。申し込み方法はホームページ等で周知いたしますので、お知り合いの方を誘い、ふるってご参加ください。

課題検討委員会(委員長:小野美喜)

コロナ禍で医療現場には多くの困難が生じ現在も会員の皆様の奮闘が続いています。委員会は昨年度に続き医療従事者の会員の方々に実態調査を行いました。回答へのご協力ありがとうございました。昨年度から改善された問題、新たに生じた問題などを整理します。結果は学会ホームページで発信し、コロナ禍での倫理上の問題を会員の皆様と一緒に考えていきたいと考えています。また調査だけではなく、直接語る場を設けることも検討しています。少しでも皆様が尊厳をもって倫理的に活動ができますよう委員会でできることを模索していきます。

庶務報告(担当理事:山口さおり)

令和3年10月末現在、本学会の会員数は934名(医療機関46%、教育機関51%、その他3%)です。会員の皆様におかれましては、学会活動に多大なるご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。本学会の会員は、法人化に伴い、正会員・賛助会員に加えて学生会員ならびに名誉会員が新設されました。入会には理事会の承認が必要ですが、申し込みは学会HPより、随時オンラインで受け付けております。看護倫理に関心を持つ看護職や学生の方がいらっしゃいましたら、本学会の活動を紹介して頂ければと思います。

MedicalFinder学会員特別アクセス権のご案内

本学会のウェブサイトjneanetでは、会員サービスの一環として2013年11月1日よりMedicalFinderの提供を行っております。研究・教育活動にぜひお役立て下さい。なお、本サービスのご利用にはIDおよびパスワードが必要で、1年ごとに更新されます。2022年用のID/パスワードは以下の通りです。

ID = ****、パスワード = **** (2021年12月1日から2022年12月31日まで有効)